1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　SSKU　増刊通巻第 5632 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3902-9996

http://www.wakuwakukan.net/

SSKU わくわくかん リボン便り

2016 年 12 月号 No. 189

シャケ Zo くん

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

第 3 回生活困窮者自立支援全国研究交流集会は、11 月 12～13 日、「広範なプレーヤーと共に―制度の見直し充実に向けて！」を掲げて神奈川県で開かれ、施行後 1 年半の折り返し点に立った各地の実践交流を全体集会での多方面の発言と 11 の分科会で活発におこなわれた。

福祉と就労をつなぐ横グシを！生困者自立支援全国交流集会

基調鼎談で、大森彌東大名誉教授は、「政策の窓」は開いた、時代の象徴としての「共生」が都市と農村の対流、地域共生社会、多文化共生の風が吹き、コミュニティによるケアが地域力として問われていると語った。宮本太郎中大教授（**写真**）は、高齢世代の老後破産、非正規・単身の現役世代の困窮、子供の貧困の３つの困窮で共倒れの拡大が起こっている中で、福祉と就労をつなぐ横グシをさして横断的・包括的に対応していく大切さを強調した。本郷健自立支援室長は、生活困窮者という存在を「見える化」できた。制度の狭間に入り、支援が届いていない人がいることを社会に示した。そして「23 条だからこそできた」と、制度の狭間をうずめるためには「自由な発想を邪魔しない、制度による支援ではなく人による支援」と自由に創造し、柔軟に支援の形を創りだすことが必要と語った。

生困法施行後の調査結果では、平成 27 年度の新規相談受付件数は約 22.6 万件で、そのうち、継続的な支援のためプランを作成した件数は 5.6 万件。包括的な支援の提供により、約 2.8 万人が就労・増収につながり、28 年度のプラン作成件数の着実な伸びがみられるとしている。また生活困窮と関連する社会状況の例として、福祉事務所を訪れたが生活保護受給に至らなかった者が年間約 40 万人、失業期間 2 年以上の長期失業者（15～64 歳）は 47 万人、若者無業者 56 万人、国民健康保険料延滞世帯数約 336 万世帯などのきびしい状況がある。また同年の新規相談とプラン作成は 901 自治体で、自治体間のばらつきも目立っている。

「困窮者支援で今こそ自治体政策転換」では、地域特性をいかしたプログラム開発の事例として、

青森・弘前市が大阪・泉佐野の就農希望の引きこもりや発達障害などの若年無業者のりんご生産の移住・定住をうながす「自治体連携による地域創生」や鳥取・北栄町の困窮者対策連絡会の施策共有や要保護、準要保護世帯の中学生を対象にした学習支援事業、また三重・名張の交付金制度を廃止し地域づくりへ使途自由なまちづくり活動費に転換、区長制度廃止、行政事務・区長会運営等委託料も廃止し、「住民が自ら考え、自ら行う」名張流を開発したユニークな事例が語られた。

徹底討論「孤立させず、地域でつなぎささえるには」では、地域は＜帰ってこれる排除しない空間＞、つながりをきらないためには「支援のプロ、つなぐプロ、地域のプロ」が必要（池田昌弘全国コミュニティライフサポートセンター）とのキラリと光る言葉や、就労支援準備事業にはその間の費用が出ないために生活保護の人は出てこれるが生活困窮に陥っている人が出てこれない状況がある」（岡田百合子 WNJ 協会）との「中間的就労」への当事者支援のなさや任意事業のものたりなさも浮き彫りになった。

＜わくわくかん 12 月予定表＞

- ✧ 12 月 3 日（土）～4 日（日）　第 34 回北区障害者作品展　10:00～　北区立障害者福祉センター
- ✧ 12 月 4 日（日）　ハートスポーツフェスタ　10:00～　滝野川体育館
- ✧ 12 月 5 日（月）・9 日（水）自主製品販売会　10:00～　北区役所
- ✧ 12 月 10 日（木）はたらっくす　16:00～　自立訓練室
- ✧ 12 月 20 日（火）家族懇談会　16:30～　自立訓練室
- ✧ 12 月 22 日（木）理事会　15:00～　わくわくかん全体忘年会　18:00～　赤羽会館 4 階ホール
- ✧ 12 月 26 日（月）現場協議会　16:30～

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5632 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

～鰆（さわら）の辛みソテー～

【1 人分】
鰆----------（切）
葱、生姜--------各 5g 少々
醤油、みりん--小さじ 1/2
豆板醤----------少々
片栗粉----------小さじ 1
サラダ油--------小さじ 3/4
クレソン--------1 枚

【作り方】

① 葱と生姜はみじん切りにし、ボウルに入れて 5ｇ少々。醤油（小さじ 1/2）とみりん（小さじ 1/2）・豆板醤（少々）を加え、よく混ぜる。
② 鰆は水気を拭いて片栗粉（小さじ 1）を薄くまんべんなくまぶし余分な粉は払い落とす。
③ フライパンにサラダ油（小さじ 3/4）を熱し、鰆を盛り付けるとき表になる方を下にして入れ、表面に焼き色がついたら火を弱め中までじっくり火を通す。そこへ合わせ調味料を入れて、全体的に絡め、器に盛ってクレソン（1 枚）を添える。

鰆
関東では寒鰆と呼ばれる 12 月～2 月が旬です。血液をサラサラにし、疲労回復、肌荒れ予防、高血圧や動脈硬化の予防等の効能があります。

北区の A 型事業所でグループワーク
「赤字のない運営」「収益アップ」等で議論

北区内には、A 型事業所はわくわく配食サービスを入れて 3 か所にあります。一つは、十条駅近くの喫茶店と浮間船戸にあるパン製造販売を行っているところです。わくわく配食サービスを含めて偶然にも、飲食関係の A 型です。北区内の会議で、その A 型事業所 3 か所のスタッフ間でグループワークを行う機会がありました。話し合いたいテーマは、「赤字のない運営」「収益アップ」「個別支援計画の時間は、給与が発生するかしないか」という 3 点でした。

結論はでないままですが、3 か所とも当事者の方の頑張りと非常勤(調理の方やドライバーの方)方々の協力がなくては成り立たないということが共通でした。そうした頑張りを無駄にせず、赤字を減らしたいと思いながらも解決策がはっきりしないことが悩ましいところです。

「個別支援計画の作成が、給与が発生するかしないか」という点も労働局では、「給与を支払って当然」という回答と福祉局では「給与の支払い義務はない」という平行線であり A 型事業所は、「福祉サービス提供の場」と「働く場」という両面がうまく連携が取れていないことも明確になりました。

課題はあるものの働く仲間で、わくわく配食サービスの運営を考えて誰もが働きやすい共に働く事業所を目指していきたいと改めて思う会議でした。

▼▽▼年末は、昼・夕共に 12 月 27 日で終了。年始は、昼・夕共に 1 月 4 日より開始です。▼▽▼

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5632 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F　TEL 03-5963-6888

北精連施設対抗歌合戦で優勝！

わが“ひびき”は実に半年前から出演する曲を決めて、練習を始めました。曲目は「PERFECT　HUMAN」。アップテンポな曲で、サビの振りが目玉です。小さな所からコツコツと、踊りがハードなため悲鳴や故障者が続出しまくり。歌合戦間近になってやっと通しで踊れるようになりました。踊りが整って来た所でボーカルを選出し、ボーカルとの全体練習。

そして迎えた当日、他施設の歌唱力やパフォーマンスを目の当たりにして緊張感が増して行きました。わくわくかんからひびきを含めて４チームが参加しました。それぞれが上手に歌い終えて、ひびきの出番となりました。本番では、練習の成果もあってまとまったパフォーマンスが出来ました。わくわくかん全体の評価が良かったらしく、なんと栄えある優勝を頂く事が出来ました。

＜ひびきの参加・応援者からのコメント＞

☆みんなでいっぱいダンスの練習しました。当日は、緊張して、頭が真っ白になっていましたが、曲が始まったら元気にダンスしました。その結果、優勝できて嬉しかったです。(S・Y)
☆「PERFECT　HUMAN」のダンスを担当しました。最初練習したころはうまく踊れなくてやだなと思っていたんですけど、だんだん踊れるようになってきて、本番ではみんなの足を引っ張らないように頑張りました。優勝できて良かったです。
☆司会も兼任して、本番終了までド緊張しまくり、ステージに立ったら頭が真っ白、無事終えた達成感と優勝と言う事でいつにない一日を過ごす事が出来て良かったです。(T・K)
☆歌合戦は 2 回目の出場となりましたがやっぱり緊張しました。優勝という最高の結果となりまして、非常にうれしかったです。沢山の思い出が出来ました。参加させて頂いて有難うございました。(Y・T)
☆ひびきのパーフェクトヒューマンが迫力があって感動しました。舞台最前列でポンポンを使ってメンバーを含め 5 人で応援できて良かったです。　(O・K)

響に通い始めて…

☆最初は「通いたくない！」でお休みがち。朝は起きるけど２度寝。友人に怒られ、なんとか通えるようになった。
最初の頃は休憩時間に「何したらよいかわからない」状態だったが、最近はメンバーさんと少し話したりできて楽しい。
今でも朝、「行きたくない」と葛藤があるが、なんとか通えるようになった。
クッキングと運動とゲームが楽しくて通ってる。　(T.K)

☆ひびきに通って１年が過ぎましたが、最初はプログラムに参加できずにいたのですが、ひびきのスタッフや利用者のおかげでプログラムに頑張って参加できるようになった。
具合が悪くてもできるかぎり、少しでもプログラムに参加することができた。　(O・K)

犬さんの似顔絵コーナー

？

答えは来月号です！

11 月号の答え

バレーボール選手の木村沙織さんです。

まもなく卒業するメンバーS さんへインタビュー

Q、ひびきで楽しかった事は何ですか？
A、クリスマス会でビンゴ大会、ひびきの流行語大賞がみんなで盛り上がって楽しかった。
Q、ひびきに来て学んだ事は何ですか？
A、人間関係を学んだ。仲間を思いやる気持ちが持てた。
Q、ひびきに来ての思い出は何ですか？
A、歌合戦で優勝できたこと。納涼祭で本当の竹を使って流しそうめんをしたこと。
Q ひびきに来て変わった事は何ですか？
A、病状が安定して来た事と、一人で外出する場所が増えた事。体力も付いた事。
Q、ひびきに来て一番楽しかった外出は何ですか？
A、お台場、マダムタッソ、柴又、が楽しかった。

クッキングプログラム報告♪

ミニクッキングとは、簡単・お手軽に作れるプログラムです。家でも作れるような内容です。今回は 4 人で作った「そぼろ丼」です。
「いり卵」「とりひき肉」「いんげん」を乗せた丼ぶりです。
苦労した所は、卵を手早く炒める所です。そして、スタッフ栗原さん監修のもと、卵に入れる砂糖をマヨネーズに変えたのと塩ゆでいんげんを追加しました。
ご飯も一人 1 合くらいあり、食べごたえがありました。　(K・F&K・O)

1998年10月9日第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2016年12 月 10 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5632 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

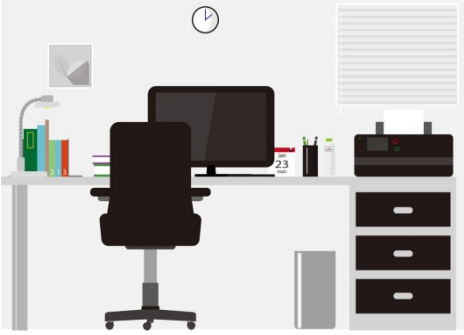
講座・模擬企業

〒114-0032　東京都北区中十条１－２－18
北区障害者福祉センター４Ｆ　Tel：03-5963-6888

企業見学（リクルート OS）

11 月 4 日と 11 月 14 日に分かれて、リクルートオフィスサポートに企業見学に行きました。

★初めてのリクルートオフィスサポートという会社にいった説明がちゃんとあったのでそこがよかったです。あまり知らない会社でしたので興味が話を聞いていてどんどん引き込まれていきました。会社の人の対応も印象が良かった。(K)



★初めて特例子会社の見学に行かせていただきました。精神障がいをお持ちの方も沢山いらっしゃるという事と働き方にも特色があるという事で希望が持てました。自信にもつながりました。様々な制度があって長く勤められる工夫もしているとの事で励みになります。(T)

★説明もわかりやすく、質問にも丁寧に答えていただき嬉しかったです。会社の中はバリアフリー設備が沢山あって、とても過ごしやすそうだなと思いました。雰囲気もとても良い感じで働くならこのような会社で働きたいなと思いました。実際に見学することにより分かったことが沢山ありました。(K)

★とても明るく、従業員(障害者の方)が生々と仕事をされていて感心いたしました。会社側の配慮も細かくされていて働きやすい環境だと思います。体重計を車イスに乗ったまま測れて、障害があっても(健康管理)(生活管理)をしっかり自覚させていて(大切な事だと思います)。実際に勤務するとしたら。週 5 日、6 ヶ月後には、7.5 時勤務に対応できる様、通勤ルートも、時間がかかり、フロアーも、開切り、パーテンションが無く、広々としたまわりに人との空間に慣れていかなければならないと思いました。(S)

★思っていたよりも、フレンドリーな社内でよい会社だと思いました。体調が悪くなったりした時はバリアフリーもしっかりとしていて私もこういった会社に就職したいと思いました。(O)

★私が見て思ったのは障害のある方が働きやすいために安全になるよういろいろな物がととのっていて細かいところまでいろいろ工夫されていると思います。(U)

★いろいろな障害の方が沢山、働いていて、良い会社だと思いました。(T)

★非常にためになりました。久しぶりに他の会社の中を見学できて良かったです。障がい者に大変配慮があり、素晴らしい会社だと思いました。ご縁がありましたら是非働きたいです。(K)

＜行政懇談会＞

11 月 9 日（水）に「気をつけよう！身近な消費者トラブル」と題して、行政懇談会が開催されました。リボーンのメンバーも研修として参加しました。北区消費生活センターの方を講師として招き、保健師２名も参加されていました。消費者トラブルについてのお話しが、DVD や実例を通してありました。質疑応答では、まさに今困っている方の相談や、企業の宣伝の仕方に関する意見、他人事ではない旨の感想など、とても濃い内容でした。

身近な消費者トラブル

◆参加者の感想◆

・商標取引とか契約について常識的に知らないとあらためていけないと、思いました。買い物依存症の事例では、本人が契約して支払い能力が無くなってしまっても家族（親）が替わりに返済を続けていて、終わらすことができず、相談員の方が親に納得させて支払させないようにした。子どもだから大切なのは、わかるが、いつまでたっても本人が自立できない。精神障害も同じで、サポート支援は必ず必要ですが、本人が意思を持って生活しなければならないと強く感じました。(K. S)

・私自身騙されやすいのですが、商法的なことに興味がないのか引っかかったことがありません。
ただ、本日のお話しを聞いて気をつけるよう心がけるよう気をつけます。(F. U)

・トラブルの内容を見ているとほぼ自分がトラブルに合ったものでしたが、改めて聞くと一度合ったから２度と引っかからないとも限らないなと思いまたそのような事にならないように気をつけないといけないなと感じました。説明をしてくださった方もわかりやすくしてくださったので大変勉強になりました。「信じていいのは役所だけ」トラブルに合った時はまず役所に言うと言う事も学べました。(K. T)

・消費者トラブル（悪徳商法）の種類と詳細、対策などを知る良い機会になったと思います。特に急増している悪質商法の手口や、具体的な対策方法・相談窓口はとても勉強になりました。また質疑応答の際に挙がった疑問や事例の話は、消費者トラブルの現実について自分なりに考えさせられたように思います。消費者トラブルを回避するためには、まず「自分１人だけで考え、判断しない事」が重要であるように感じました。(S. T)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　SSKU　増刊通巻第 5632 号

法人事業所めぐり

相談事業所わくわくかん　計画相談

″働きたい、社会と繋がっていたい、人の役に立ちたい″、の希望がひしひしと…

2013年5月より障害者総合支援法の福祉サービス利用希望する方は、計画相談が必要となりました。介護保険で言うとケアプランと同じです。

相談という言葉を聞くと、皆さん様々な一般的な相談ができる場と思う方も多いと思いますが、現在の事業の中では福祉サービス利用のため、すなわち受給者証発行のための計画相談が主になってしまっています。

現在は、わくわくかん利用の方を中心に計画作成しております。2016 年 11 月までの利用登録者数は 161 名（終了者を含む）、現行 98 名、全体の 48%が就労に関係するサービスを利用されています。

ご本人の希望する生活を伺う中で感じることは、「働きたい。社会と繋がっていたい。人の役に立ちたい。」と皆が想っているということです。少しでも希望に叶うお手伝いが出来ればと考えています。また、関係機関が多くかかわっている方のケースは、ご本人の意向に沿っているか常に意識していかないと誰のための計画なのわからなくなってしまうと思います。

相談員 2 名ですが、各事業の方のご協力があり業務が成り立っています。今後わくわくかん相談事業所だからできることを幅広く考えていけたらと思っています。

就労支援センター 北わくわくかん
就労・生活のご相談に

就労支援センター北わくわくかんでは、主に精神の病気等により就労面や生活面についての困りごとのご相談に乗っています。

まず、就労支援センターを利用されたい方は、お電話をいただいた上で、初回面談の日程を決めます。

★当センターの業務の内容★

就労に関しては、就労前から就労後まで登録者の方のサポートを行っています。求人検索、通院同行、応募書類作成、面接練習等をしています。

ハローワーク・職場見学・体験や採用面接への同行をしています。就職後は必要に応じて、定期的な職場訪問をしたり、職場での悩みや困りごとをお聞きしたりし、安心して長く働けるようサポートしています。

また、その他にも避けては通れない人間関係の悩み、健康管理、金銭管理、ストレス発散方法、将来設計の生活に関することを一緒に考えます。

★一例★

◎「障害年金を申請したいけど、どうやるの？」
→必要に応じて年金事務所にスタッフが同行し、一緒に説明を聞いた上で申請の書類作成のお手伝いや提出書類の確認を致します。

◎「体力がないので就労のための訓練がしたいが、どう進めたらいいのかわからない」
→訓練場所の情報をお伝えして、見学・体験利用の日程調整やお手続きのサポートをします。

◎「就労しているが、困っていることがある。でも上司に言いづらい…どう伝えたらいいんだろう」
→まずはご本人様のお話を聞いた上で、ご自分で伝えられる方法を一緒に考えてみます。お話によっては、会社の方に訪問又はお電話で状況をこちらからお伝えし、安心して働けるように会社の方へ働きかけます。

就労面や生活面でお困りの方がいらっしゃいましたら、電話 03-3598-3337 までお問い合わせください。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　SSKU　増刊通巻第 5632 号

第８回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時:　2016 年 12 月 20 日（火）16:00～17:00
場　　所：　障害者福祉センター　４階　自立訓練室
内　　容：　わくわくかん懇談会
個人面談:　※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先：　TEL　03－5963－6888　FAX　03－3906－9997

えか農場への見学

11 月 14 日（月）に、千葉県流山市にある「えか農場」見学へ、合計９名で行ってきました。えか農場は、わくわくかんの理事であるＯさんが運営されている農場で、知的障がいの当事者が 30 名近く働いていて、2 ヘクタール程の農地で、無農薬・有機肥料農法で数十種類に上る野菜を作っているとのことです。働いている方はほとんど男性で、月から金の週５日、午前９時から午後 3 時まで農場で働いているそうです。当日の到着はお昼近くになりました。到着後早速に野菜の収穫を体験させてもらいました。里芋、水菜、ピーマン、大根など十種類ほどの野菜を、5 つのかごが一杯になるまで取らせてもらいました。

お昼は、えか農場の皆さんと屋外で焼きそば・フランクフルト・豚汁を、おなか一杯になるまで頂きました。開放的な空間で大勢と一緒に食べる昼食の味は格別で、本当に楽しいひと時でした。

野菜狩りの案内は、わくわくかんの OB であるＴさんが行ってくれました。今でも王子から流山に毎日通ってらっしゃるそうです。野菜の取り方や品種などについて一つひとつ懇切丁寧に説明していただいて、大変有難かったです。

えか農場には、Ｔさん以外にもわくわくかんの OB が何名か働いています。当日は、普段農場に来ていないメンバーも来ていて、リボーンを９月末に卒業したＹさんとも再会しました。元気そうな姿が見られて嬉しかったです。

お昼をはさんで、かごが一杯になるまで野菜狩りを行った後、Ｏさんからえか農場の説明を受けました。自分たちで収穫した野菜を全て持ち帰らせてもらい、さらに焼き芋までお土産で頂いて、非常に楽しく有意義な一日でした。

11 月はたらっくす報告

11 月のはたらっくすは 12 日（土）16～18 時に行われ、3 名の参加でした。特定の人の話に終始して「もう少し、自分の話も対応して欲しかった」という感想があったらしく、反省してこれから重々注意したいです。

私のヘルパーの仕事の利用者さんの作業所への送り迎えで、作業所近辺の方に主に朝に会った人に私は「おはようございます」と挨拶をしています。それによって、地域の方々に障害者の理解が深まり、利用者さんが地域での居心地が良くなって欲しい、地域がどうにかして活発になって欲しい、という想いでしています。それで感じるのが「地域の皆さんは暖かいな」という事です。多くの方が挨拶も返してくれるし、笑顔を見せて下さいます。「東京人は冷たい」とは言い古された言葉ですが、人々は結局私達と同じ人間だし「もしかしたら、皆普通に暖かい人達ではないのか」と感じます。

次回のはたらっくすは 12 月 10 日（土）の 16～18 時にわくわくかんで行います。働いている方、働きたい方ならどなたでも OK です。時間内はいつ参加されても、退室されても自由です。あなたも是非気軽にいらして下さい。　(S.M)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　SSKU　増刊通巻第 5632 号

第５回北精連施設対抗歌合戦　運営報告

2016 年 10 月 25 日（火）、北とぴあ 15 階ペガサスホールにて、「第 5 回北精連施設対抗歌合戦」が開催されました。今回は 8 施設から 24 組のエントリーがあり、また、当日の会場はほぼ満席となりました。

第 5 回目の開催ということもあり、各事業所でもイベント自体が定着してきて、前回歌合戦が終わった時点から、今回のイベントを楽しみにしてくださった方がいたようで、各事業所のスタッフには「第 5 回はいつですか？」等といった問い合わせが、日程など全く決まっていない段階の時期からあったようです。

北精連施設対抗歌合戦≪結果一覧≫

団体賞
- 総合優勝：わくわくかん
- 準優勝：オ'ハナ、来夢（同点のため２施設）

審査員特別賞
- よくまとまっていたで賞：ワーク・スペース・ポピー
- 盛り上がっていたで賞：みのわマック
- 楽しんでいたで賞：つばさ工房
- 元気があったで賞：ワークインあすか
- 感動したで賞：支援センターきらきら

運営は、今回も各参加事業者からスタッフ 1～2 名が代表して集まり、準備に取り掛かりました。初めて担当するスタッフもいれば、前回歌合戦にも関わっているスタッフもおり、前任者との情報交換はもちろん、各事業者間でも情報交換をしながら準備を進めました。

そのかいあってか、ホールや機材の予約などの事前の準備から、用具の確認や会場のセッティングなど当日の準備まで、滞りなく進めることができました。

当日の司会は、開会式がみのわマックの土屋さん、閉会式はわくわくかんの浅香が努めました。開会式の時は、「まだ始まらないのか」という会場の盛り上がりを感じ、閉会式では「早く結果を知りたい」というとても強いプレッシャーを感じながらの司会でした。

本番では、残念ながら急遽欠場となった方もいましたが、皆様のご協力もあり、滞りなく進行することができました。

参加した方々からは、一体感を得ることができたことや、負けたことを悔しがる声、賞をもらえたことに対する喜びの声など、様々な声が聞かれました。

会場の盛り上がりを感じ、運営がうまくいって良かったという安心感と、関わることができて良かったという達成感を感じることができました。

今年も会場が一体となって大盛況のうちに終わった歌合戦ですが、もう来年の曲目を決めている方々もいるようです。

東北⇔関西⇔九州

11.23　大阪・長居公園で

ポジティブ生活文化交流祭

「東北⇔関西⇔九州ポジティブ生活文化交流祭」というユニークな企画が 11 月 23 日、大阪・長居公園で開かれた。被災経験や被災障害者救援活動を経験されたゲストを交えて、おしゃべりも運動会もライブも雑貨も屋台も前夜祭もある７回目を迎えた空間だ。

なぜ「東北⇔関西⇔九州ポジティブ生活文化交流祭」なのかの前口上を聞いてみよう。

このたびの熊本地震でも私たちの取り組みは、障害者支援分野だけではなくいろんな分野や立場のみなさまと結びつきながら、行っております。この活動のなかで、東日本大震災以降、私たち大阪や関西からの「支援者」と現地で出会った人たちを「被災者」といった一方向のつながりではなく、双方向にお互いの地域性や生活文化を尊重し合う関係を築くことに努めてきました。

この５年間、東北の障害あるこどもたちが関西の同じようなこどもたちと交流する恒例イベントやそれぞれの関係性のなかで往来し、東北のつながりができつつあります。その大きなきっかけとなったのがこの「東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭」でした。

東北から遠く離れた大阪でこの５年間、自分たちがこれから何ができるかを考えたり、おしゃべりしながら¨ポジティブ¨に＜⇔双方向＞を育んできました。ここに今年は「⇔九州」が加わります。

「東北⇔関西⇔九州ポジティブ生活文化交流祭」に集まるすべてのみなさんがそれぞれの世代も性別も地域も活動分野や個性を超えて、お互いの価値観や培ってきた生活文化を尊重しあう。

そこからうまれるいろんな＜⇔双方向＞の数だけ前に進めると信じて・・今年も開催します。

熊本大震災後の障がい当事者を軸に生まれた「被災地障害者センター熊本」や前号の生協を中心に生まれた「こころをつなぐよか隊ネット」に続いて、阪神淡路大震災の中で生まれた「ゆめ風基金」の上に拡がった関西の元気な企画にとても癒されます。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 12 月 10 日発行　SSKU　増刊通巻第 5632 号

投稿！

Happy

さとっしー（配食サービス）作

明石家さんまは言った　幸せってなんだっけと
自分もそう思う　なんなんだろう

朝起こされて　働きづめで
夜家にかえり　ビールを飲み　今日もがんばったなと
それって幸せか？

では　不幸ってなんなんだろう
軽く遊び半分で殴っただけの人が
打ちどころ悪くて死んじゃった
これって両者不幸　それは分かる
派遣切りで解雇された　でもたまたま　宝くじがあたった
3 億ゲット　不幸か？

というかそもそも　お金があれば幸せか？
断言する　そうとは限らない
例えば 100 億の資産がある老人がいたとする
家族はだれもいなく孤独であり
全身マヒで動けない
では聞こう　あなたは幸せか？と
もしか　すると　あまりに不幸だから
殺してくれと　号泣されながら
頼まれるかもしれない
それを断れる自信はない

朝起こされて　働きづめで
夜家にかえり　ビールを飲み　今日もがんばったなと
それって幸せか？

明石家さんまに話をもどそう
生きているだけで丸儲けという意味で
こどもは「いまる」と名付けた
おれはそれはどうなんだと思う
もう死にたいと思う人間がどれだけいるか
だけどおれはさんまのいう事に同意する
生きてさえいればと思う

かみさんがうるさくて　子どもがわるでさあ　と、
じゃあ聞くが　かみさん　子どもが　突然死んだらどうする
個人的には　自分がくらったら
多分　壊れる
そして　すぐ死ぬ

そろそろ結論を考えなければならない
朝起こされて　働きづめで
夜家にかえり　ビールを飲み　今日もがんばったなと
それって幸せか？
恐らく「幸せである」と

就労支援センター北わくわくかん

登録者　（2016 年 10 月末）　632 名
就職者　4 名（清掃 2、事務、建物検査）

先月　ご協力いただいた皆様

・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉障害者センター・熊本センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・ハローワーク王子・池袋・東京障害者職業センター・東京都精神障害者家族連合会・リクルート・資生堂・戸田中央看護専門学校・社会福祉法人ドリームヴィ・NPO 法人飛鳥会・東京アドヴォカシー法律事務所・(社福)東京コロニー東京都大田福祉工場・一般社団法人ローランズプラス・（株）ECA・東電ハミングワーク株式会社・社会的企業研究会・株式会社社会評論社・わっぱの会

他多くの方にご協力いただきました。

グループホームわくわくかん

男性入居者の S さんの日中活動先は自立訓練の響ですが、緊張でなかなか思うように通所が出来ません。その代わり、週 3 日、赤羽駅前花壇の水やりボランティアをしてくれています。世話人の携帯電話に S さんからの留守電メッセージが。「赤羽駅前のゴミ集め、今終わりました。」また別の曜日にも同じメッセージが。決められた曜日以外にも率先して駅前のゴミ拾いをしてくれている様子。誰に言われる訳でもなく理由を聞いた所、「何となく」との事。月曜日に響の N さんが赤羽公園を清掃しているので、そのお手伝いを提案した所、快く引き受けて下さいました。一時期は通所先を変更する事も検討した S さんですが、「何となく」と言う程、自然に取り組めるゴミ拾い。ありのままの自然な自分の姿で、社会に貢献できる内容を見つけた S さん。きっと貢献とすらも感じていない姿に頭が下がるばかりです。

▼編集後記▼

昨年はピケティの『21 世紀の資本』の旋風が吹いたが、今年はロルドンだという。今春フランスを揺るがした労働法改悪を中心に格差社会への「怒れる者たち」の「夜、立ち上がれ」の抗議運動のリーダーとして知られる。作品社から『なぜ私たちは、喜んで”資本主義の奴隷”になるのか？』と『私たちの”感情”と”欲望”は、いかに資本主義に偽造されてるか？』の訳書を連続して出した杉村昌昭さんの講演があるというので出かけた。新自由主義社会の”感情”と”欲望”の構造分析に踏み込んだその論は、賃金労働者は搾取による貧困から 20 世紀はフォーディズムで消費という外在的喜びに誘導し、21 世紀の新自由主義社会では労働の内在的な”自己実現”幻想を与えて現在の「所有による生の支配」に至るという社会学的・哲学的な分析は眼からウロコだ。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）